

タンザニアの教育の現状と協力隊活動

鈴木 祐二

(18-1, タンザニア, 理数科教師,)

私は、現在釧路東高等学校で化学・生物を担当しています。これからタンザニアのことを説明したいと思います。

タンザニアですが、首都はドドマというところになります。実際には経済の中心はダル・エス・サラームという港町になります。公用語はスワヒリ語です。英語も若干通じます。それから産業ですが、観光やサイザルの輸出、それから鉱物としてはタンザナイト、宝石で有名なタンザナイトの産地がタンザニアになっています。宗教ですが、沿岸地方およびザンジバル島では、ほとんどイスラム教で内陸のほうにいくとキリスト教、それから周辺部の方、よく分からない方へいくと不思議な宗教がいっぱいあるという国です。通貨はタンザニアのシリング、1ドルは、僕がいた頃で1200シリングでした。今はだいぶ変わっているようです。このタンザニアという国は、非常に平和な国で、おとしケニアで大統領選挙があったのですが、そのときに民族対立で事件がありました。しかし、タンザニアでは独立してから民族対立は一度もありません。初代の大統領がニエレレという大統領で教育者であるということがすごく大きく影響してしまっていて、民族対立のない平和な国だということで、タンザニアにいる人たちは、のんびりとした性格の人たちが多いです。ちなみに、タンザニアの物価ですが、大体ビールが1本90円で飲める、水はペットボトル1本30円くらいと考えていただければいいと思います。

では、タンザニアの学校制度を紹介します。タンザニアの学校制度は、プライマリースクール、セカンダリースクールOレベル、セカンダリースクールAレベル、ボケーショナルスクール、そしてユニバーシティで、日本とは若干違います。システムとしてはイギリスのシステムに近いものがあると思います。プライマリースクールの前には保育園と幼稚園と両方あります。小学校ですが、7年間あります。小学校の確か2年生のときに、**National Examination** という試験があります。それが終わると次は7年生のときに **National Examination** があります。この試験の成績でセカンダリースクールの行ける学校が決まってきます。小学校は、現在無償ということで誰でもいけるような環境に整ってきています。なので、進学率、就学率というのはすごく高い数字が出ています。タンザニアの政府が発表している数字もかなり高い数字、ただしプライマリースクールのグレード7まで終わられる生徒は、ぐっと減ります。60%~40%くらいの生徒しか残ることができません。その背景にはアフリカ特有の問題があります。たとえば家の仕事が忙しくて子どもを小学校に行かせられない、小学校まで通うのに距離がありすぎるという理由です。また、中退する生徒の理由としては、女子の妊娠の問題などもあります。就学率はいいのですが、卒業で

きる生徒は少ないのです。セカンダリースクールに進学する生徒は、ここ近年は増えてきているようですが、今度はセカンダリースクールに行く生徒が増えることによって学校、校舎が足りない、教師が足りない、という現状が出てきています。特に、山間部や人の少ないようなところだと、周辺の生徒を集めて生徒数 400~500 人という生徒が集まるのですが、そこに配属される教師が 4~5 名しかいない。その先生方ですべての教科をカバーしなければいけない。その先生方もタンザニア人の気質なので、時々休んだり時々出てきたりたまに農作業に行って来なかったりということで、非常に惨憺たる状況にあります。セカンダリースクール O レベルの 4 年間が終わると、また **National Examination** があります。ここで優秀な成績をとるとセカンダリースクール A レベルに進学できます。

ボケーションalsスクールというのは日本でいうと職業専門学校のようなところになります。自動車のことを勉強したり、技術的なことを勉強するところになります。セカンダリースクール A レベルの方は 2 年間ですけど、これは大学やその後の専門学校に進むための予備的な学校になります。2 年間終わるとほとんどの生徒は大学を目指して **National Examination** に挑みます。私が勤務していたのは **Tanga Technical Secondary School**、通称 **TTS** といわれているところの A レベルに配属されていました。この学校は全寮制の政府校としてはタンザニアで最も古い歴史を持つ学校です。特に、この学校は進学率が高いということで、全国各地から生徒が集まる大変優秀な子どもたちの集まっている学校です。ちなみにこの学校は全寮制で、学費は、年額 7 万シリング、日本円で 7 千円程度で 1 年間の寮費、それから学費の全てがまかなわれることになります。このセカンダリースクールですが、A レベル以外にも O レベルをちゃんと持っています。O レベルでは、テクニカルというぐらいなので、一応テクニカルの授業も行っています。土木や電気、自動車の授業も行われていました。この学校、タンザニアの学校はそうなんですけど、自分がこの学校に行きたくて来たかという点意外とそうでもない。O レベルには、自動車を勉強する女子もいます。土木でコンクリートをこねている女子もいました。これは **National Examination** の成績がいいのであなたはこの学校に行きなさいということで、推薦されてというか選ばれてきていますので、女子でも土木の勉強をしている子もいました。ちなみにこっそり O レベルの女の子にコンクリートをこねているときに、「コンクリートこねるの楽しいかい」と言ったら、「本当はこれしたくなかったんだよね、でもここ行けって言われたんでいま来てるんだけど。でも、この学校は優秀な学校だから私はすごい幸せです」というふうに前向きに捉えてコンクリートを練っていたので、ちょっと良かったなと思います。

僕は A レベルに所属していました。A レベルはちょっと変わったクラス編成をしています、理科系 3 科目のクラス編成です。PCM 物理化学数学、そして PGM は、地学が含まれる分類です。そして生物が含まれる分類で PCB、CBG、この PCB と CBG の生物学を担当していました。この学校は、A レベルに限ってですが各クラス 40 名から 50 名、ときどき 60 名になったり増減があります。これは私もクラスで出席簿を作って生徒管理していたのですが、生徒管理し切れませんでした。名前を呼んでいて 10 回くらい返事がない生徒が

いまして、どうしたのかと思ったらいつの間にか学費が払えなくてやめていったとか、他の生徒も知らないけど、あいついなくなったという子もいました。それから学期がはじまってから生徒はそこにいるんですけども、一度も僕の出席をとるときに返事をしない生徒もいました。おかしいな、でもこの子見たような、いや見たことないような、黒人なので僕から見てもなかなか顔の区別が難しいんですね。同じように見えるので、おかしいなおかしいなと思って、勇気を出して「君は最初からいたかい」って聞くと、「いいえ」と。学期の途中から突然入ってくるんですね。ですので各クラス増減がすごくあります。全校生徒数は大体 600 名程度、不確実です。校長先生に「今何人いるの」と聞いたら「うん、だいたい 600 名くらいかな」と言っていましたので、これくらいだと思います。

先生の数も大体 40 名くらいで増減しているみたいです。ただ、これも不確実で、突然新しい先生が来たり今まで一生懸命やっていた先生がいなくなったりと。職員会議で、あの先生どうなったのかなと聞くと、ただいま行方不明と、そういう状況でした。この学校はタンザニアの先生が行きたがる学校で、優秀な学校なので先生方は来たがります。街にあるので先生方は来ます。転勤してきた先生に「なんでこの学校に来たんですか」と聞くと、「前の学校は水も電気も全くなくて川に洗濯に行ったり、井戸に水汲みに行ったり、すごく大変だった。しかも川からワニが出てくるからそれに比べたらここは天国のようなところだよ」ということで、他の学校の先生方もここに転勤したがります。

そんな学校の生徒の様子ですけども、いくつか写真を持ってきました。まずは寮ですけど、これが寮の部屋です。このベッド1つが1人分の生徒の居場所です。これは2階建てですけど、1階に40名くらい入り、すべて吹き抜けでドアとか何もありません。窓はガラスもありません。ここも扉があるんですけど、隙間風は入るし、それから蚊が入ってくるのでマラリアにかかって、今日はちょっとマラリア気味なので休みますという生徒が多くいました。欠席の理由はマラリア、ちょっとマラリアと言ってる生徒が多くいました。これが洗濯物をほったらかしているのではなく、干している状況なんですね。最初、僕はショックを受けて、何してるのかな、これ汚れるじゃないかと思ったんですけど、タンザニアの人たちに聞くと、葉っぱの先がツンツンしてるので、そのツンツンしたものの上に乗っければ土がつかない、ノープロBLEMということで、この洗濯物をこうやって干していました。これは生徒たちが、お金がないので自分たちで散髪をしているところですね。非常によく勉強をする生徒たちなので、土曜日、日曜日はこうやって木陰に机とかいすを持ってきて一生懸命勉強しています。ほとんど毎日勉強しています。

私が担当したのは、生物です。当初の要請は、まったく違います。当初は物理科の担当として現地の生徒に授業を行い、学校行事や校務運営の効率化に努める、というのが要請書の内容でした。訓練所でも、物理を想定して訓練をしてきました。実際、向こうに行つてですね、校長先生とミーティングした後に、おまえの専門は何だと聞かれて、僕は、生物と化学だということを言ったらですね、じゃあ、好きなところに行けということで、生物科の方に配属させてもらいました。結果としては、僕の好きな生物ができたので、大変

良かったと思います。それから、クラブ活動を行いました。これは後で報告します。ワークショップを行って、情報発信ということで、僕が今勤めている釧路東高校にタンザニア通信ということで、毎月 5 ページくらいの通信を、この写真入りの通信、これを生徒に配ってもらったり、あと教職員の皆さんで、情報共有してもらったりしていました。

授業の風景ですが、一応、机・椅子、あります。これ僕の授業中なのですが、暑いのでネクタイとかは勘弁してもらいました。ポロシャツで汗だくになりながらしていました。雑談は、ほぼスワヒリ語。授業は国の方針で英語でやれということなので、英語でやっていました。でも、意外と生徒たちの英語の理解力が低くてですね、一年くらいたってから授業にもスワヒリ語を入れて、生徒たちの気を引きながら授業をするようにしていました。授業での問題点ですが、これについて僕は 4 点ほど考えてみました。まず、教材の問題点ですが、教科書がありません。テキストですが、イギリス製で一冊 6000 円。とてもじゃないけれど、寮費が 7000 円の生徒が 6000 円のテキストを買うわけがない。なのでほとんどコピー、もしくは学校から借りたものを生徒たちが使いまわしでノートに写していました。それから教室環境ですが、先ほど見ていただいたように窓ガラスもなく、雨季で雨が降るとですね、大変な状況になります。机や椅子が、足りません。それから掃除ができない。これは多分タンザニアの、まあ男子しかいなかったのが問題だと思います。

それから生徒のほうですけれども、生徒は先ほど言いましたように出席がはっきりしない。それから突然いなくなったりいつのまにかいる。授業中もそうなのですが、突然いなくなったりします。どうしたの？と聞くと、「ちょっとマラリアなので今日は帰ります」と。もうマラリアが理由なんですね。教具の問題としては、チョークが非常にもろい、黒板消しがもろい、実験器具が……、ということでした。チョーク黒板消し、これはほとんど中国からの輸入です。タンザニア製のチョークもありましたが、指でこうぎゅっと押すと碎けるほど軟らかいです。なので、一回の授業だいたい 2 時間授業ですが、5, 6 本チョークを使い切りました。

そんなタンザニアの授業の工夫ということで、今日はこれから行かれる先生もいるということで、ちょっと話をしたいと思います。まずは模造紙やカラーチョークを使ってみました。生物なので図表がすごく多いので、模造紙に全て書いて、これをばっと貼ってですね、生徒にしっかり写させる。使った後はタンザニアの先生に使ってもらえるようにということで、補強して生物科のほうに渡してきました。それから、色を使うということでカラーチョークを使いましたが、生徒は青ボールペンしかもっていないので、あまりカラフルにしてみようと書ききれないよと言っていました。それから教材の工夫ということで、単純なもので十分なのかなと思いました。顕微鏡なんかも水滴で作ったり、ガラスビーズで作ったり。こういうものは、そのあと生物科の先生方の研修に使いました。それからコンピューターの活用ということで、年齢的には 20 歳前後の生徒でしたので、コンピューターを十分活用して、動画・スライドを見せる。それからウィキペディアなんかからデータベースを使ってですね、色んな情報を生徒に見せてきました。ものすごく夢中になります。

実験室ですが、理数科教師なので実験をしなくてはならない。実験をとりまく4無いがあります。器具がない、知識がない、試薬がない、時間がない。もうどうしようもないんですが、自分でできることがないかなと思ってやってみたのがこの二つで、顕微鏡の修理と、それから掃除。20台あったうちの半分、10台はなんとか使えるように修復できました。それから試薬、薬品の管理なんですが、劇毒物がそこらへんに散らばっていたので、なんとかしなくちゃいけないなということで、管理方法を提案しました。

実験室はこんな感じです。水道はあります。水は出ますがこのパイプが漏れるので、下にバケツを置かないと実験できません。それからガスは出ません。ガスボンベとかはありませんので、先ほどカンボジアの写真見て、ガスボンベ使った実験をされていてちょっとショック受けたのですが、灯油のコンロもしくは炭のコンロで実験していました。これが僕のいた準備室なんですが、マラリアの恐怖におびえながら、実験の準備をしていました。実験室では標本作り、ここに惨憺たる標本があったので、これちょっと作り直してきました。それから、先ほど言った劇毒物の管理。それからカラーチョーク、僕の自費で購入してここに置いておきました。タンザニア人、シャイなので、頂戴って言わないんですね。なので、ここに置いておくといつの間にか持っていく、というかたちをとって、タンザニアの先生にもカラーチョークを広めてみました。

生物クラブなんですが、色々問題がありまして、この4つだけしかできませんでした。なぜかという、タンザニアの生物クラブは、**National Examination**に向けた勉強をさせなさいという方針だったので、だったらタンザニア人でやれと、僕は日本人なので生物を楽しめるクラブ活動をする、ここでぶつかりまして、折衷案として**National Examination**にも出るけど生物も楽しめる、ということでこの4つの実習をしました。

それからワークショップなんですが、生物科の教員との情報共有ということで、常日頃、生物科の先生方と色々話して、ああこれ同じだね、とかこれ違うね、ということで生物の話をしていました。それから生物科教員への指導、というかまあ一緒にやったんですけど、ツルグレン装置、土壌生物を調べるための装置を手作りしたり、あとは、細胞分裂の観察方法なんかを、知らなかったの、これを一緒にやってみたりしました。

向こうの植物を使わなきゃいけないので、それもいろいろ一緒に採りに行って実験してみました。ツルグレン装置は、本当は24時間電気をつけなきゃいけないんですけども、24時間電気つきっぱなしということがないということに気付かしまして、これはちょっと良くないなと、ということで現地の状況を考えないといけないという反省のひとつです。それから、教務科担当の先生方へ指導ということで、時間割や成績処理、エクセル使うと便利だよ、という話をしてですね、電気のある3時間くらいにやったんですけども、結局電気がないので、コンピューター使えないので、やっぱり手書きが一番いいかな、というふうに思いました。

タンザニアの学校と日本の学校との比較ということで、違うところを比較したいと思うのですが、まずは、体罰で鞭打ち・草刈、これあの、本当に鞭打ちしてました。鞭といっ

でもよくしなる棒ですね、おしりをパチンと叩くんですが、こういうことがありました。生徒たちも、体罰はよくないと考えています。で体罰反対のために一度だけボイコットがありました。ボイコットのときに先生方は何してるのかなと思ったら、ああ今日ボイコットだから授業ないわ、帰るわということで、みんな帰っちゃいました。僕はですね悔しいので、俺は日本人だから関係ない、授業やるからおまえら来い、ということで授業やったらですね「うーん」といいながら、来ました。

それから校長先生の存在が違うということですね。校長先生がエンターテイナーですね。生徒たちの話をよく聞くし、それから校長先生の話も面白いので、生徒たちも校長先生の話をよく聞いてます。すばらしいなと思いました。それから職員会議の雰囲気も、皆が意見をすごくいいやすい雰囲気ですね。面白かったのは、なんでも言いつばなしと。ひどいなと思ったのは、会議のときくらいコーラとかソーダを出せという意見が出て、その意見に対して校長先生が分かったということで、その日の終わりにコーラが出てきたということがあったりしました。それから教員の責任感、これはないです。あの、僕日本人として責任もって仕事をしようと思ってたんですが、僕のとなりにテスト監督に行っていた先生がですね、急にいなくなってですね、「ちょっと鈴木、隣のクラスのテスト監督もやっと思ってくれ」と。おまえどこ行くんだったと云ったら、「ちょっとマラリアだから病院行ってくる」ということで、抜け出すんですね。なんか時間があると抜け出そうとするんですね。しょうがなく2クラスまとめてみたこともあります。

それから評価について意識アンケートということで、タンザニア人は評価をどう考えているのかなと。通知箋とか作るの、どう考えているのかってことをアンケートしたんですけども、日本の評価システムについてもすごく理解してくれました。タンザニアも、そうだねこういう評価しなきゃいけないね、これからそういうふうの評価っていうことについて問いただされるというか、話題になるんじゃないかなと思います。

それで任務以外のボランティア活動をいくつかしたんですが、小学校での理科実験授業をやりました。これが僕の知り合いのお母さんです。たまたま小学校の先生で、行くことができました。これ、大地で何かうんちとかしてるのかっていうとそうじゃなくて、これ大地で字の練習をしています。指で6とかbとか数字を書いて練習をして、それから自分の練習ノートに一生懸命書いて、それで字を覚えるということで、まずは、この大地がノートです。

あとは、この小学校の生徒に向けて理科実験授業をいくつかやりました。すごく楽しかったです、これは。それからタンザニアは、見所がたくさんありまして隊員の楽しみの一つに、サファリ、旅があります。サファリに動物を見に行ったり、海にいったり、地域は海が美しいところでこういう無人島もありました。ナショナルパークへいくとこういう動物がですね、ちょろちょろ普通にいます。ゾウなんかも、身近に感じます。タンザニア隊員の目標は、キリマンジャロに登ること、私もへたれながらも頂上まで行くことができました。で、今、帰国後何をしているかというと、理科教員に戻り、生物Ⅱという選択授業

を持っていますので、その中で、生物紹介、アフリカで僕が取り貯めた写真をですね、こういう生物紹介という図鑑みたいにして生徒に配っています。なるべくマニアックな生物で作ってます。ライオンやチーターとかああいうのは普通の図鑑に載ってますので、載っていないような生き物で、こういうのを紹介しています。それから隣の高校で、ボランティア基礎という授業がありまして、その授業の講師で、隣の学校で授業をしています。それから体験報告会ということで、1・2年生に総合学習の授業の中でアフリカの話をしています。それからこのあとは、英語科の研修会で語学の話とか、話をする予定でいます。

彼ら、この笑顔を見れば分かると思いますが、タンザニア人はとても素敵で、とても気さくで、すごくいい1年9ヶ月を過ごすことができました。以上で報告を終えたいと思います。